

令和6年度

高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・シンポジウム



国立障害者リハビリテーションセンター

令和7年2月14日

於：Web会議形式

令和6年度 第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・シンポジウム

開催日時：令和7年2月14日（金）13：15～15：40

開催方法：Web 会議方式

対 象 者：高次脳機能障害支援拠点機関に所属する支援コーディネーター等

開会

- 1 開会あいさつ 13：15～
国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センター長

- 2 シンポジウム ～当事者家族会との関わり、家族交流の支援について～
13：20～14：20

- 特定非営利活動法人 高次脳機能障がい友の会うつくしま
元福島県高次脳機能障がい支援室支援コーディネーター
野本 尚子 氏
- 特定非営利活動法人 高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」
高次脳機能障害者サポートセンター笑い太鼓 施設長
加藤 美由紀 氏

<休憩>

- 3 グループ情報交換会 14：35～15：40
- ・ 支援拠点機関等と当事者家族会との関わり、家族交流の支援について
 - ・ その他の情報・意見交換

閉会

目 次

I	シンポジウム ～当事者家族会との関わり、家族交流の支援について～	
	○ 特定非営利活動法人 高次脳機能障がい友の会うつくしま 元福島県高次脳機能障がい支援室支援コーディネーター	
	野本 尚子 氏 . . .	2
	○ 特定非営利活動法人 高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」 高次脳機能障害者サポートセンター笑い太鼓 施設長	
	加藤 美由紀 氏 . . .	9
II	グループ情報交換会	18
	・ 支援拠点機関等と当事者家族会との関わり、家族交流の支援について	
	・ その他の情報・意見交換	

シンポジウム

～当事者家族会との関わり、家族交流の支援について～



2025.2.14

患者・家族サロンを通して
当事者家族会と支援拠点との関わり

NPO法人 高次脳機能障がい友の会 うつくしま
(元福島県高次脳機能障がい支援室支援コーディネーター)
野本 尚子



自己紹介

- 医療ソーシャルワーカー（総合南東北病院：郡山市）
- 1999年～地域福祉（社会福祉士、介護支援専門員）
 - ・在宅介護支援センター
 - ・居宅介護支援事業所
 - ・地域包括支援センター
- 2012年～医療ソーシャルワーカー（総合南東北病院）
 - 2016年～2022年 福島県高次脳機能障がい支援室支援コーディネーター兼務
- 2023年～富久山地域包括支援センター（社会福祉士）
 - NPO法人高次脳機能障がい友の会うつくしま賛助会員



内容

- 高次脳機能障がい友の会うつくしま
- 患者・家族サロンへの協力
- 患者・家族サロンの役割
- 当事者家族会と支援拠点機関の連携・協働
- 福島県の支援体制整備

3

一般社団法人 日本損害保険協会助成事業

日本高次脳機能障害友の会

第20回 全国大会2024 in福島

交流会 令和6年10月4日 金 18:00～20:00

大会 令和6年10月5日 土 9:00～16:15

会場 ▶ ホテルハマツ (郡山市)

高次脳機能障害者支援法成立で何が変わる 渡邊 修 氏
高次脳機能障害者の行動の理解に向けて 鈴木 匡子 氏
他人事じゃない! てんかんの真実 土屋 真理夫 氏

三善 寛 氏 特産 もも 高かつき 氏 櫻井山と種島代道 氏 R 只見線第一橋梁 (只見川) 氏 冬の大内宿 氏 いわきマリンタワー 氏

2024.10.5 全国大会の様子

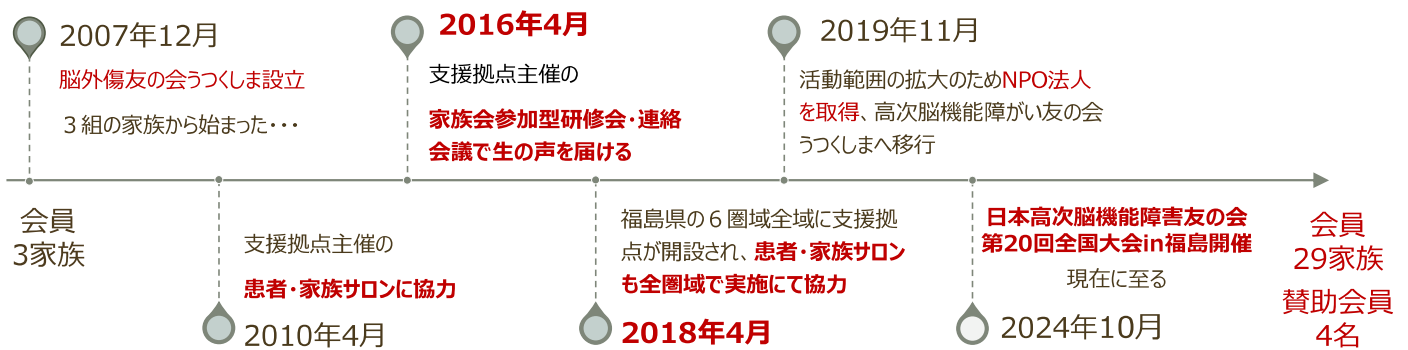


2024.10.5 シンポジウムの様子



4

NPO法人 高次脳機能障がい友の会うつくしまの軌跡



5

福島県高次脳機能障がい支援室

- 2008年9月に総合南東北病院(郡山市)を支援拠点機関として指定
- 2010年4月からは委託事業として運営
 - 支援コーディネーター2名 兼務配置
 - 相談支援事業
 - 支援体制整備
 - 普及啓発事業
 - 患者・家族サロン開催⇒当事者家族会協力

6

患者・家族サロンとは・・・

- 【目 的】 当事者の視点で話を聞いてもらえる患者・家族同士の
の支え合いの場
- 【対象者】 高次脳機能障害の診断を受けている当事者及びその家族
- 【場 所】 福島県高次脳機能障がい支援室
(総合南東北病院内)
- 【日 時】 毎月第3土曜日 10時～12時
- 【参加費】 無料



7

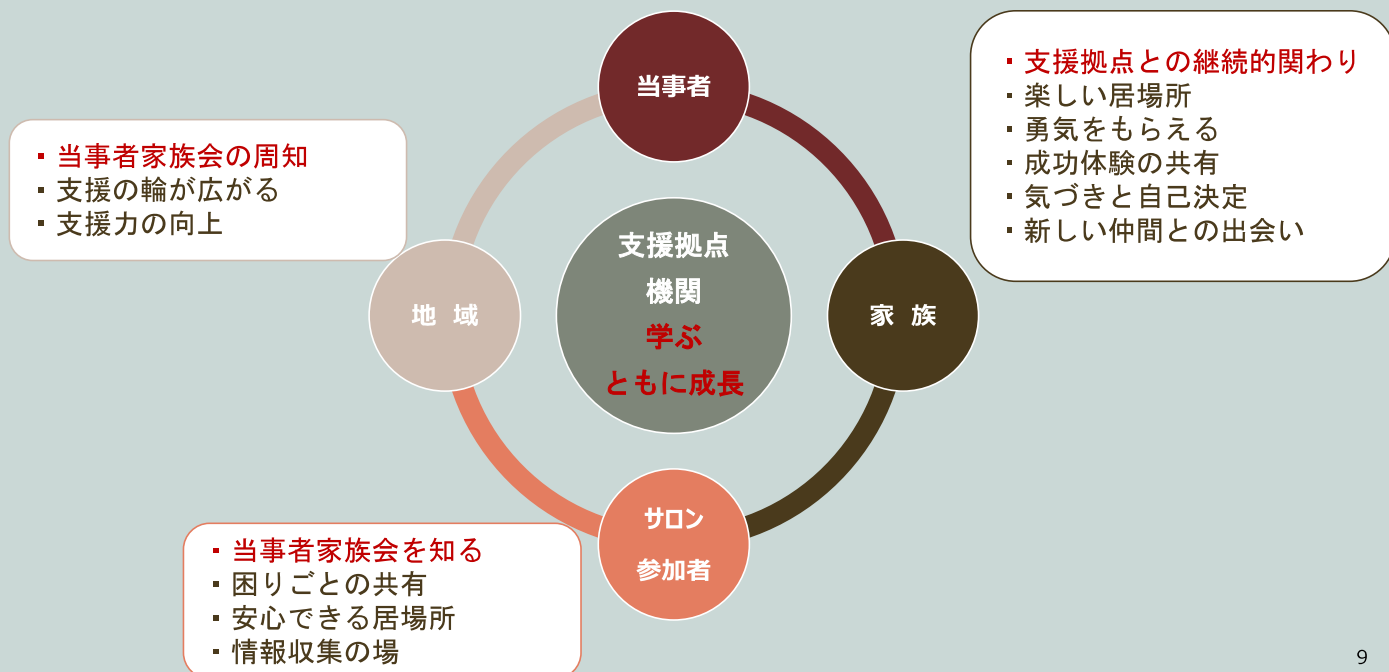
患者・家族サロンでのうつくしまの思い

- 広い県内に支援拠点が1か所しかなく、患者・家族サロンも月1回、ここにも参加できないで困っている人がいるんじゃないかなあ…
- 身近な地域で患者・家族サロンが開催でき、
悩んでいる人のためにつなりたい



8

患者・家族サロンの役割と有益な循環システム



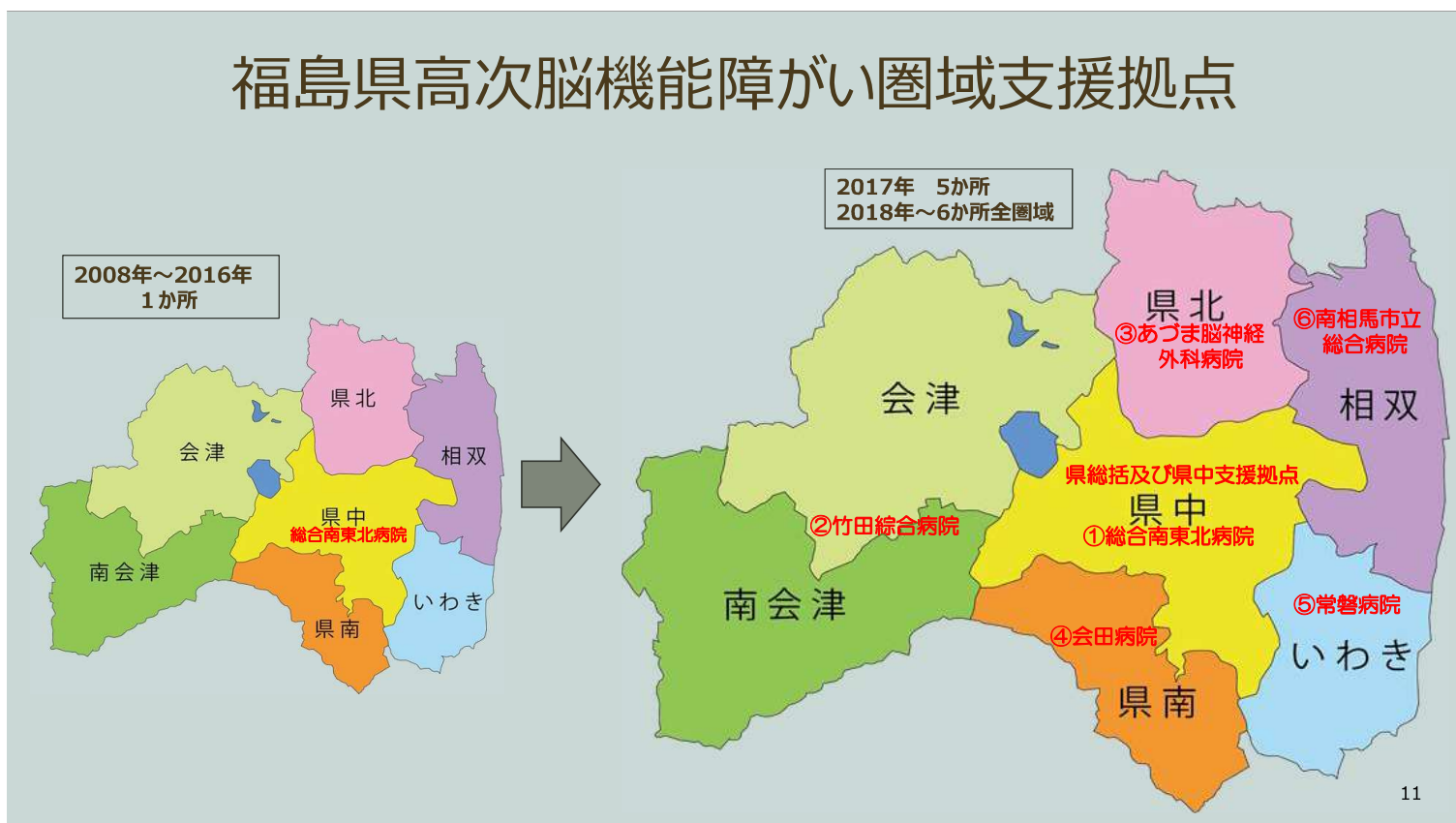
9

当事者家族会と支援拠点機関の連携・協働

課 題	目 標	仕 組 み
誰もが患者・家族サロンに参加できない	全圏域に支援拠点開設	家族会参加型の研修会・連絡会議 委託事業としてのサロン
診断・支援・評価が十分にできない	医療機関に支援拠点開設	県と支援拠点で病院訪問 診断・支援・評価システムの拡大
当事者ごと家族目線での支援	家族会と支援者がともに育ち合う環境づくり	サロンでの思いの共有と助け合い 成功体験の共有 継続的な循環システム

10

福島県高次脳機能障がい圏域支援拠点

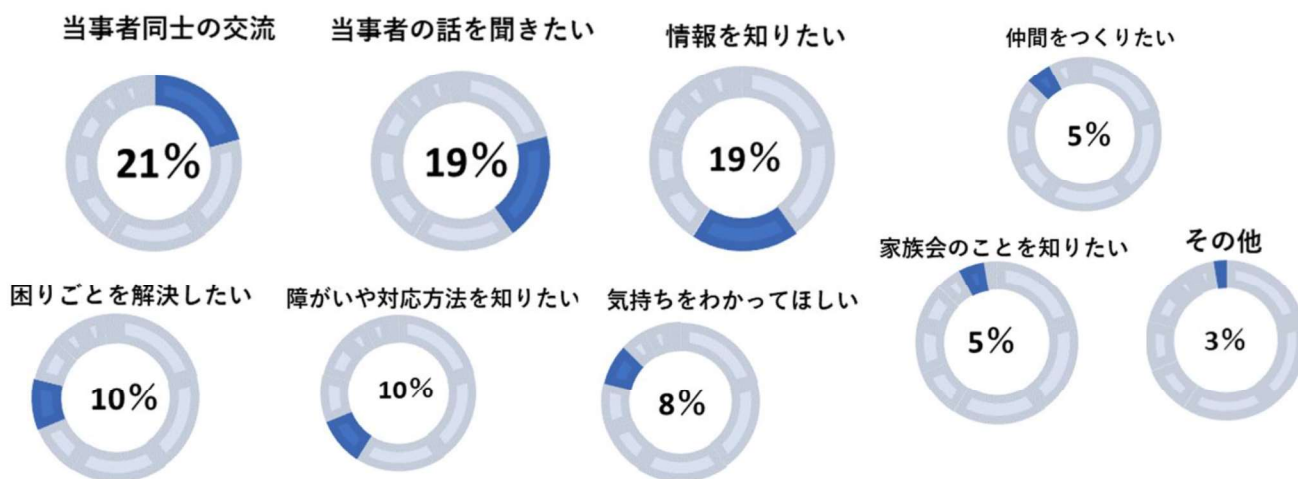


11

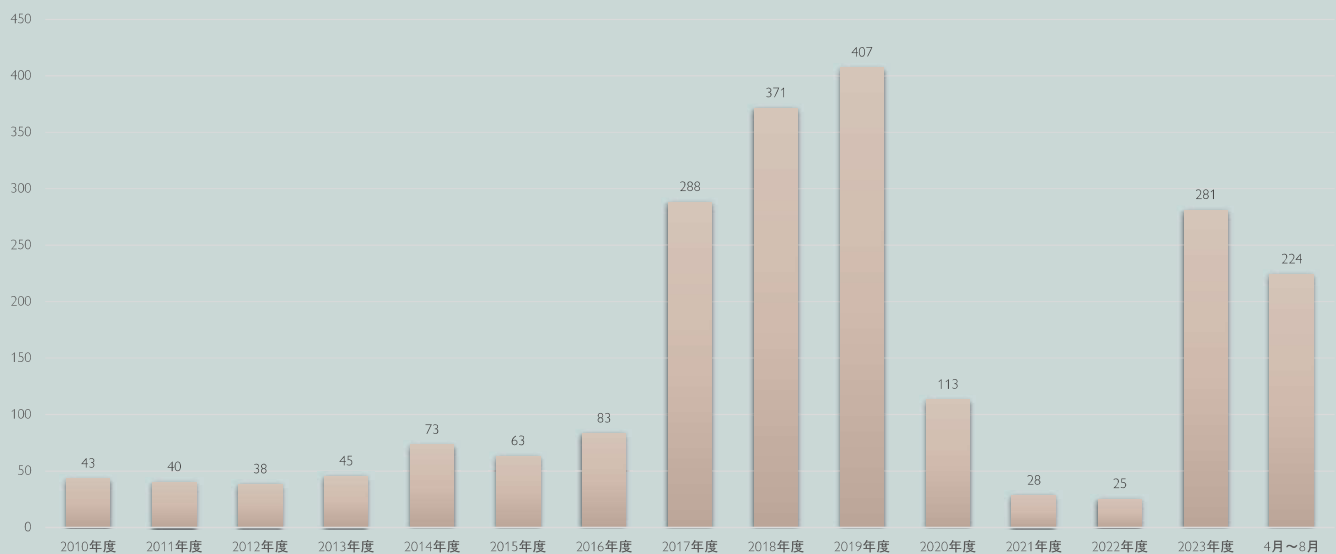
サロン参加者の目的

2023年度 県中・県北圏域でのサロンで実施したアンケート結果

実施回数: 計14回 参加者述べ合計: 145名 複数回答可



患者・家族サロン延べ参加人数の推移



※ 県中圏域は毎月開催、他の5圏域は隔月開催

日本高次脳機能障害友の会第20回全国大会2024in福島 シンポジウムより引用

13

ありがとうございました

全国大会を無事に終え、多くの方々に支えられ感謝の気持ちでいっぱいです。

会員にとっても自信となり、サロンは勇気をくれる場所、一期一会の出会いをこれからも大切に紡いでいきたい。

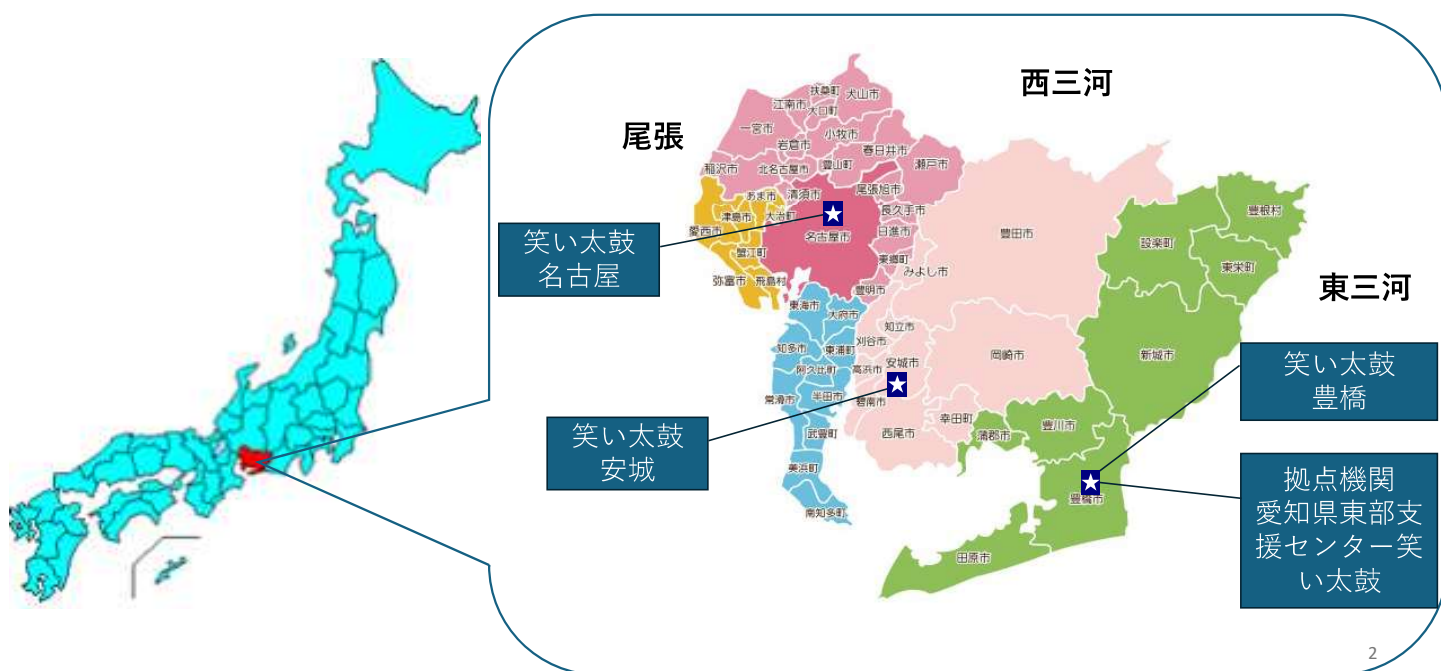
14

家族支援について

NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」

高次脳機能障害者サポートセンター笑い太鼓 施設長 加藤 美由紀

どこにあるの？



笑い太鼓あゆみ

1998年 当事者家族（3家族）により2か月に1度会合の場を作る

2000年 無認可の施設「作業所やモリ」として活動 通所者4人

2001年 「身体障害者小規模授産施設 工房 笑い太鼓」と改名 通所者10名

2006年 特定非営利活動法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」設立

⇐モデル事業

地域活動支援センター笑い太鼓 運営開始

⇐支援普及事業・自立支援法

運営主体が『家族会』から『NPO法人』へ移った

「笑い太鼓」の家族支援は法人事業所が主体となって行う

→ 現在はファミリークラブを開催

2008年 相談事業を開始 高次脳機能障害相談支援センター（豊橋）

名古屋での事業を開始 高次脳機能障害者サポートセンター笑い太鼓（名古屋）

2010年 名古屋でも相談事業を開始 高次脳機能障害相談支援センター笑い太鼓名古屋（名古屋）

2019年 愛知県より高次脳機能障害支援拠点機関を委託されている

3

NPO法人「笑い太鼓」の活動目的

高次脳機能障害者の社会参加を支援します

1. 高次脳機能障害の研修・啓発活動

講演会「なるほど！なっとく！！高次脳機能障害」

地域の事業所からの相談や研修依頼への対応

2. 当事者・家族への相談・助言

ファミリークラブ

3. 当事者支援は生活の自立と就労等を支援

障害福祉サービス（相談支援事業・地域活動支援事業）



4

事業所説明①

高次脳機能障害者サポートセンター笑い太鼓

- ・ 設立 2008年5月 名古屋市地域生活支援事業：地域活動支援センターデイサービス型)

高次脳機能障害者が、
今ある機能を生かしながら日々
の生活をエンジョイすることと、
少し時間をかけて社会参加を目
指すことを目的に、単なる作業
所や、デイサービスという枠に
とらわれない新しい試みの施設
を目指して運営を開始



当事者同士がサポートし合える“サポートセンター”を目指しています

5

事業所説明②

高次脳機能障害相談支援センター

2008年10月開始

高次脳機能障害相談支援センター笑い太鼓名古屋

2010年4月開始

- ・ 体調が悪い
- ・ 病気の時
- ・ 病気の予防

ホームドクターがいれば安心

- ・ 借金のトラブル
- ・ 法律のトラブル

顧問弁護士がいれば安心

- ・ 障害について悩んだり、
- ・ 生活で困ったりしたとき、
- ・ 不安に駆られたとき

相談支援専門員がいれば安心

※ステージが変わっても、いつでも相談できる
場所、相談できる人がいるから安心

笑い太鼓が相談支援専門員に期待すること

ライフステージに応じる社会通念
高次脳機能障を正しく理解しケースに汎用できる専門性

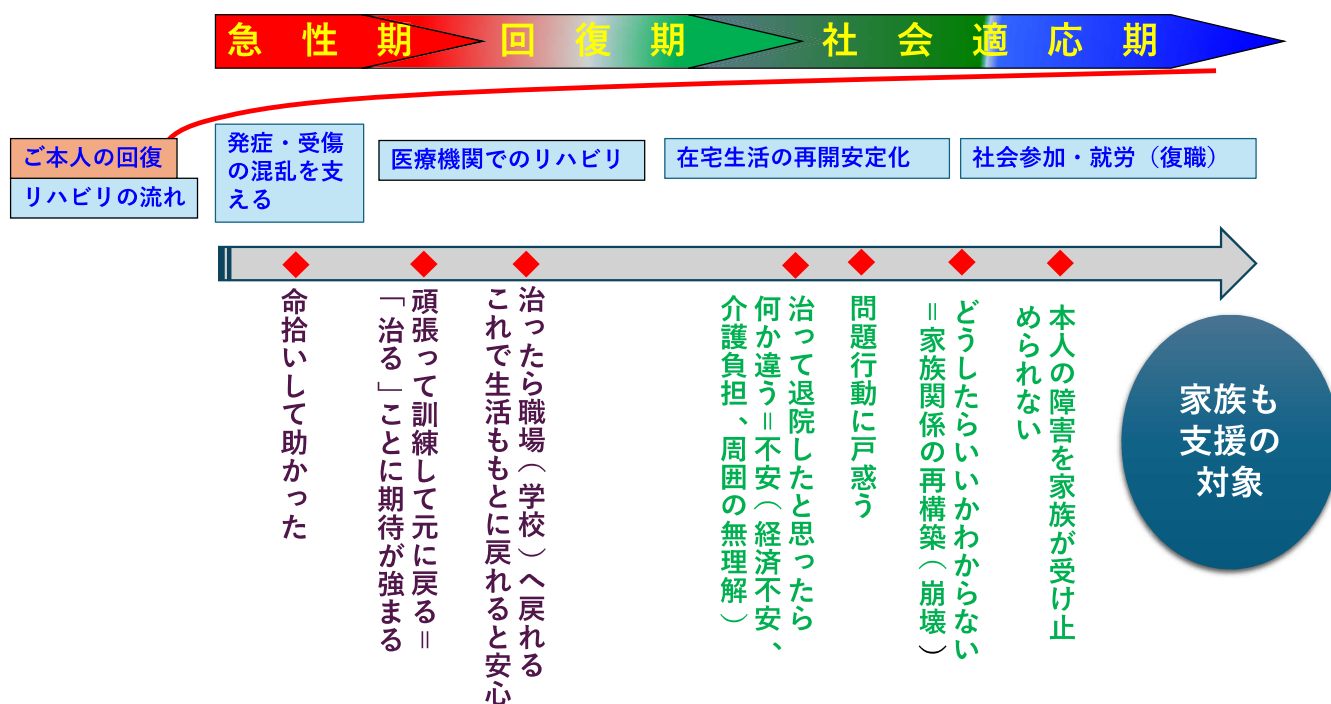
6

笑い太鼓は 2つの事業を介して 家族支援しています。

7

家族支援の必要性

家族は最も身近な支援者であり家族という環境



家族の困りごと

- いろいろな変化に戸惑う
 - ・ 人生計画が狂う
 - ・ 仕事が続けられない
 - ・ 趣味や楽しみが続けられない
 - ・ 意志の疎通にいつも努力が必要
- さまざまな不安、問題
 - ・ この先どうなるのか・・・
 - ・ 経済的な不安
 - ・ 体調の変化や再発の心配
 - ・ 周囲の人たちの無理解や誤解
 - ・ 友人や親戚と疎遠になる
- そばにいる家族の気持ち
 - ・ 不安、動揺、悲しみ
 - ・ 自分を責めてしまう
 - ・ すごく損をしている気がする
 - ・ 自分だけ楽しんでいると後ろめたい施設に送り出すのが申し訳ない
 - ・ 自分のための時間がない
 - ・ 働きに行くにも本人を一人にできない



9

当事者も困っています

- ・ 言いたい言葉が見つからない
- ・ 頭が真っ白になると何もわからない、何も思い出せない
- ・ 自分で自分の気持ちがわからない
- ・ 映画を見てもストーリーを追えない
- ・ 同じ本を何度も読み返す
- ・ 会話についていけない
- ・ 買い物でお金の計算ができない
- ・ 人の集まる場所には行きたくない
- ・ 日記を書いても本当に自分が書いたのかと疑う

10

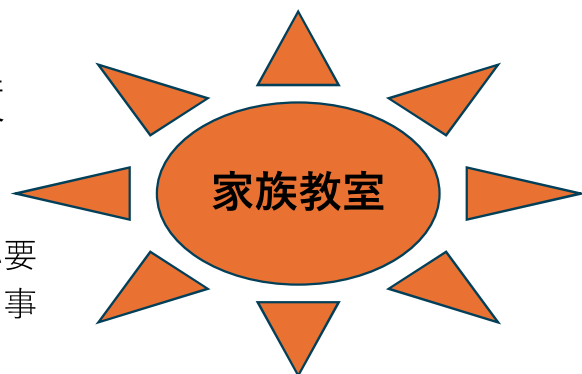
笑い太鼓が考える家族支援

- 家族が困っている事を客観的に見る目、聞く耳が必要
- 本だけではわからない高次脳機能障害の事や本人の事
- 家族と本人をバランスよく考えること



そのために...

高次脳機能障害を家族と当事者で勉強



家族教室とファミリークラブの2本立て
知識を得る場所と経験を語り合う場所を提供している。

11



ファミリークラブ

毎月第1土曜日に13時からサロンを開いています

お茶を飲みながら皆さんでお話ししませんか？

場所：サポートセンター笑い太鼓

お気軽にお越しください！

お問い合わせは 052-981-3033 石川まで

ファミリークラブ
毎月第1土曜日
名古屋事業所で開催

主催者：笑い太鼓
参加者：家族中心
＋
時には支援者
時には当事者

遠方の方でもZoomで
参加されています

12

ある日のファミリークラブ

13

ファミリークラブに参加した家族

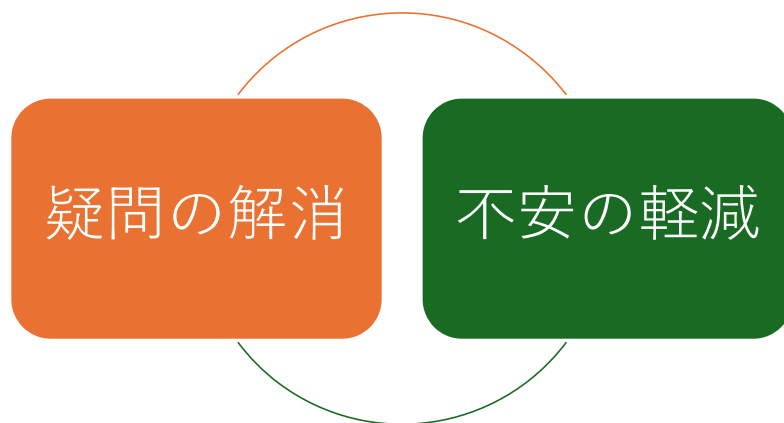
- ・退院したばかり、今後よくなるにはどうすればいいか？
- ・日中活動をさがしてた。復職希望である。そのためのリハビリは？
- ・現在就労リハ中だが、家族への暴言が多く、家族はつらい・・・。
- ・今まで元気だった夫の介護を行うなかで嫌ではないが、これまで一緒にやっていたレジャーやイベント、旅行、楽しみ全般に興味がない夫の傍で私もすべてを諦めなければならないのか？
- ・何年経っても生きづらい、特に職場でうまくいかない夫の顔を見るのがつらい・・・。
- ・「私は1つの事しかできない！」と自分中心の主張ばかりで妻が家事をしない。
- ・すぐ怒る。不安になりやすい。子供への負担が大きい。みんなどうしているのか？
- ・気に入らない一言で爆発する。容量が小さいので言っても無駄。
- ・この現実を「仕方がない」と思うしかないのか？

14

ファミリークラブに参加した当事者

- ・何年経っても生きづらい、特に職場でうまくいかない。
- ・障害があっても普通でありたいと思っていたが・・・
- ・第3者に助けてもらう、教えてもらう事が必要！とわかってきた。
- ・今、代償手段がわかってきているところだよ。
- ・本人の心得「言われたことはしっかりやろう！」
- ・直すべきところがわからない。
- ・じっとできない。
- ・やりたいと思ったらすぐ動いちゃう。
- ・マルチタスクができない。
- ・あれもこれも気になる。
- ・切り替えができない。

15

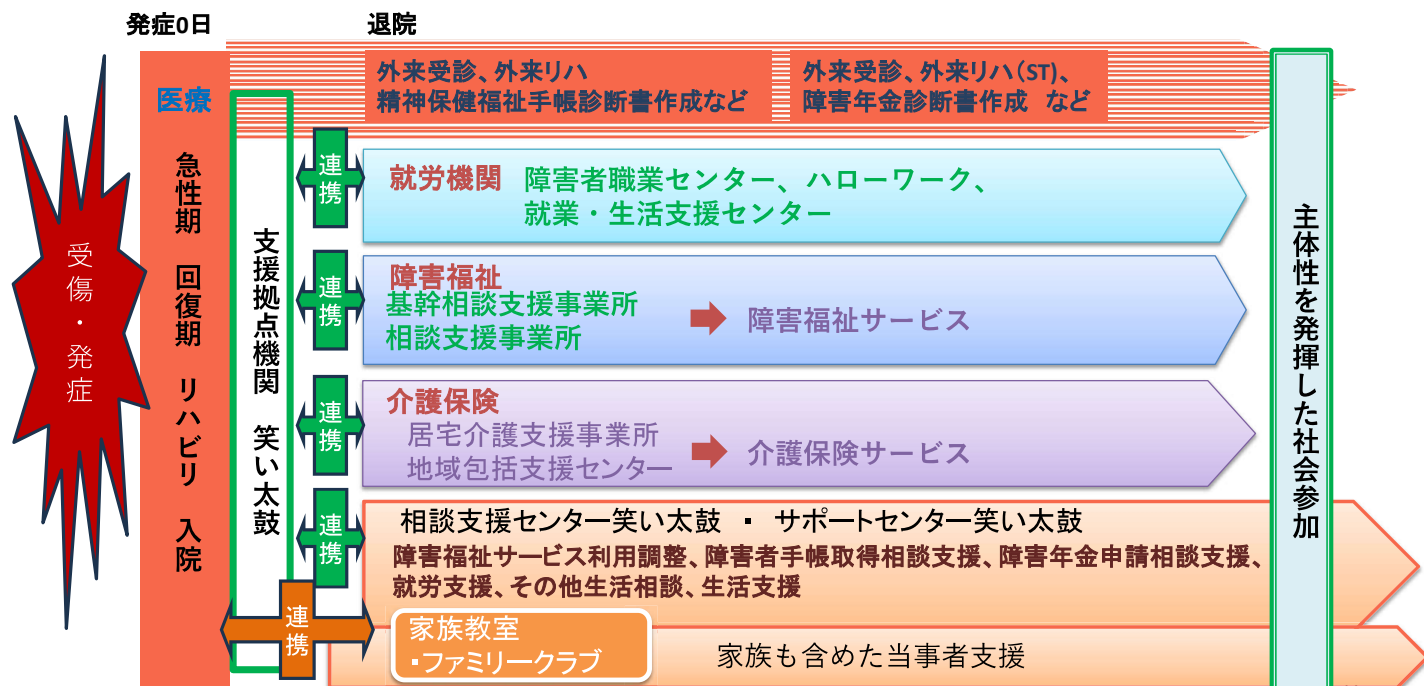


これが
笑い太鼓のファミリークラブで目指す事です。

16

支援拠点機関との連携について

笑い太鼓は途切れない連携・協働を目指す



笑い太鼓は
地域活動支援事業と
相談支援事業と
支援拠点機関

法人全体で支える
家族への支援

ご清聴ありがとうございました

令和6年度第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議
＜グループ情報交換会＞

テーマ

- 支援拠点機関等と当事者家族会との関わり
 - ・ 地域における当事者家族会の現況
 - ・ 支援拠点機関等との関わり 等
- 家族交流の支援
 - ・ 家族交流の場（「家族の集い」等）の設定、実施内容・課題 等
- その他の情報・意見交換
 - ・ 支援拠点機関等における各種事業実施の状況・課題 等

令和6年度第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議
＜グループ情報交換会＞

スケジュール

- | | |
|---|------------------|
| ① グループ情報交換会の進め方 | 14：35～14：40（5分） |
| ② グループ情報交換会 | 14：40～15：30（50分） |
| ・ 自己紹介 | |
| ・ 役割分担（司会、発表者）を決める。 | |
| ・ 質問がある場合は、メンバーの「ヘルプを求める」→
「ホストを招待する」ボタンによりお知らせください。 | |
| ③ 発表・まとめ | 15：30～15：35（5分） |

令和6年度 第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・シンポジウム

令和7年2月14日

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部
高次脳機能障害情報・支援センター

〒359-8555

埼玉県所沢市並木四丁目1番地

電話：04-2995-3100（内線2594）

E-mail：hbd@rehab.go.jp